



八王子盲学校だより



令和6年2月発行 第10号
東京都立八王子盲学校長 安田 咲登子

心の中の鬼を払う

副校長 能瀬 圭介

八王子の気温が先日、マイナス4.1℃を示していたそうです。一気に寒さが増して朝晩の冷え込みが一段と厳しくなりました。早朝、職員室から校庭を見ると仮校舎の鉄筋が組まれ、そこに冷却された大気中の水蒸気が朝日にあたってダイヤモンドダストのように光っていました。

さて、2月3日は節分です。節分とは季節の変わり目をさし、もともとは立春、立夏、立秋、立冬の前日を言いました。ところが、日本では立春が1年の始まりとして特に尊ばれたため、次第に節分と言えば春の節分のみを指すようになったそうです。そして昔は季節の分かれ目、特に年の分かれ目に邪気(鬼)が入りやすいと考えられていて、邪気(鬼)払いの行事が行われるようになりました。おなじみの豆まきは新年を迎えるための邪気払いの行事です。そして鬼は人に災いをもたらす目に見えないものです。ではその鬼はどこにいるのでしょうか？それは私たちの心の中に潜んでいるように思います。節分当日は「鬼は外！福は内！」と豆まきをしながら自分はどんな鬼を追い払いたいのか考えてみてください。

少し話は変わりますが、大谷翔平選手から寄贈のグローブが本校にも届きました。さっそく始業式で校長先生から紹介され、児童・生徒が順番に手に取って触ったり、はめてみたりしました。大谷選手は学校関係者への手紙の中で「このグローブが私たちの次の世代に夢を与え、勇気付けるシンボルになることを望んでいます。それは野球こそが私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。」と述べています。

嫌なことから逃げず、あきらめず、毎日努力を積み重ね、まわりの人に感謝できる大谷選手はきっと、自分の心の中の鬼を日々追い払い続けているのだらうと思います。そして手紙の最後は「野球しようぜ！」という言葉で締めくくられていました。

本校では、そのグローブは飾らずに、実際に使って盲学校ならではの使い方を工夫する予定です。



大谷選手から寄贈されたグローブ

寄宿舎紹介 ～寄宿舎ってこんなところですよ～

寄宿舎主任 矢口 直

東京都内特別支援学校のうち、5校に寄宿舎が設置されています。八王子盲学校寄宿舎は都内の盲学校としては唯一、小学部から高等部までが入舎できます。敷地面積も建物も、都内では一番大きな寄宿舎です。

寄宿舎では、年間を通じて様々な取組が行われています。各学期末に行われている行事は、舎生会(寄宿舎自治的活動)役員の児童・生徒が中心となって進めます。季節行事や余暇活動も年間を通じて行われています。今回は、余暇活動として行われている栽培活動の「サツマイモ栽培」についてお伝えします。

寄宿舎には中庭があります。ブランコや滑り台などの遊具もあります。天気の良い日は中庭の芝生でボールを蹴ったり、鬼ごっこをしたりして伸び伸びと遊びます。そんな中庭の一角に畑があります。5月にサツマイモの苗を植え、秋に収穫します。夏場の光を浴びてぐんぐん葉っぱが成長していくと、子どもたちの期待感も膨らみます。

中庭の畑は4年前から少しずつ整備し、石を取り除いたり、土を入れ替えたり、害虫を手作業で駆除したり、先生たちの努力も功を奏し、今年は豊作となりました。寄宿舎の食事でも度々サツマイモ料理が提供されるほどの収穫量になりました。

収穫の日、シャベルで先生に少しだけサポートしてもらい、そこからは手で掘っていきます。大きなサツマイモはなかなか抜けません。手をまっくらにしながら土をかき分けて、いくつも連なったサツマイモを手にしたときの舎生の輝く笑顔。栄養士さんが工夫を凝らしておいしいデザートにしてくれますが、自分たちで収穫したサツマイモを食べた時のおいしそうな笑顔。

そして、収穫し終わった後のサツマイモの「ツル」を使って作った大きなクリスマスリースを作り、舎生みんなで飾り付けをしました。

サツマイモの他にも花の栽培、寄宿舎にある果実の収穫などもしています。寄宿舎にお越しの際は、玄関前の花壇や、中庭の様子もぜひ御覧ください。

<校舎改築に関する工事等の予定>

1月17日(水)からは、「ボルト締め」の作業も始まりました。
騒音レベルは引き続き「小」です
御理解・御協力をよろしくお願い申し上げます。

<授業参観について>

2月7日(水)と8日(木)は「全校授業参観日」です。
保護者の皆様の御来校をお待ちしています。

